

# 豊潤の里 だより

## 人の気持ちを分かろうとしない栗本 HD!!

～ こんな体質の企業が処分場を造ったら ～

「50 年間 し尿やゴミが運び込まれてきた地域の人の気持ちがわかりますか?」(自治協)  
「わかりません!」(栗本 HD 担当者)

昨年 12 月 7 日午後木谷地域センターで、木谷自治協議会代表 3 名と栗本ホールディングス(栗本 HD) 2 名とで話し合いをもった。2 時間以上の厳しいやり取りの最後で、冒頭の質問をしたらこの言葉が返ってきた。住民の思いや願いを無視し、産廃処分場建設を推し進めようとする栗本 HD の姿勢に、「悪徳業者」のやり口がダブって見えてきた。

「地域に暮らす人々の思いや願いが理解できない相手と 100 年話し合っても共通理解はできない」と切捨てはしたものの、後味が悪い。今まで自治協は、6 年間に渡りさまざまな形で話し合いの場をもってきた。それは、私たち住民の率直な思いや願いを根気強く伝えれば、分かってもらえるのではないかという微かな期待があったからである。全く甘かった。その愚かさを今後悔している。

栗本 HD は弁護士も抱えた百戦錬磨のプロ集団、一方こちらは片田舎のド素人。栗本 HD が最終処分場建設問題を持ち込んできて以来、木谷地域は分断されている気がする。HD 担当者は処分場建設のために土地を売ってもいいと思っている地権者がいると言う。地元の住民の多くは処分場建設に反対している。このように地域を分断させることで、住民の結集力を弱体化させ、処分場建設を有利に進めようとしている。これがプロの常套手段である。温暖な気候に恵まれた静かな農村をそっとしておいてほしい、住民同士を疑心暗鬼な気持ちにさせ、分断しないでほしい。また別の会合で栗本 HD の担当者はこうも言った。



「処分場建設の反対署名が 7660 筆も集まっている。多くの人が反対している」(自治協)  
「反対署名は、知人や親戚に頼まれてやっている」(栗本 HD 担当者)

開いた口がふさがらないとはこの事。この発言からも、人々の思いや願いを分かろうとしない栗本 HD の体質が明白に出ている。こんな体質の企業が処分場を造ったら、どうなるか。それは住民の生活を無視し、利益のみを追求する産廃処分場になることは火を見るよりも明らかである。

作らせないのが一番、栗本 HD を赤崎に入れさせないのが一番である。

## 新年のご挨拶

木谷自治協議会会長 尾首 豊

新年明けましておめでとうございます。正月は、除夜の鐘から初詣までの一連の慣習などを通じて、旧年中の色々な思いをリセットし、新たな気持ちで取り組む良い機会になります。

ここ数年間の地域の出来事を振り返ると、平成30年7月の豪雨災害からの復旧は進んできましたが、令和2年から始まった新型コロナの感染拡大による影響で、祭りや敬老行事、地域運動会など、人々が集い語り合う機会が失われました。

まだこのコロナ禍の収束時期は見えてきませんが、安心してこれまでのような日常生活が送れる状況に戻れば、木谷自治協議会としても中止や延期となっている事業やイベントをできるだけ早く再開していきたいと考えています。

また各部会では新規の「まちづくり計画」を策定中で、木谷地域まちづくり実行委員会でも来年度の事業を検討中です。中長期の課題としては産廃処分場建設反対、空き家の利活用や交流人口増加施策などがあります。行政や社会福祉協議会の援助も得ながら、住み続けられるまちづくりを推進したいと考えています。皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

## 木谷地域センター主催講座 ①



11/19・26 「筆ペンであそぼう ～筆あそびのすすめ～」で味のある文字絵に挑戦。松田由美子さん（風早在住）の手ほどきで、手本を真似て書く（描く？）段階から始まり、自分の個性や感情を表現した立派な作品に仕上がりました。



12/10・17 「布あそびと手しごと」では、光保智恵子さんに教わりながら、つまみ細工で鶴や花を作り色紙に貼り、華やかで縁起の良い飾りができました。



12/24 手作りの「ミニ門松」を飾ってお正月を迎えたい。水野哲朗さんに教わったり手伝ってもらったりして、新年の準備がまたひとつできました。



## 文化講演会 「漂流記の世界にせまる」



12/11・12 第40回広島県文化団体連合会主催の文化講演会が万葉ホールで開催されました。今回のテーマは江戸時代後期に木谷の廻船業・元屋の船「稲若丸」が遭難し、漂流ののち救助されて異国の地を踏んだ8人のうち、故郷木谷に戻れたのはたった一人の水夫であったという「夷蛮漂流帰国録」に因んだものです。この記録を現代語に訳した矢原大和さんが、漂流記の世界とその背景を解説しました(写真・左)。またこの漂流記を基にした矢原さん原作の「望郷の海―漂流伝説―」を、“劇団あらむ”(安楽夢)が朗読劇で熱演しました(写真・右)。

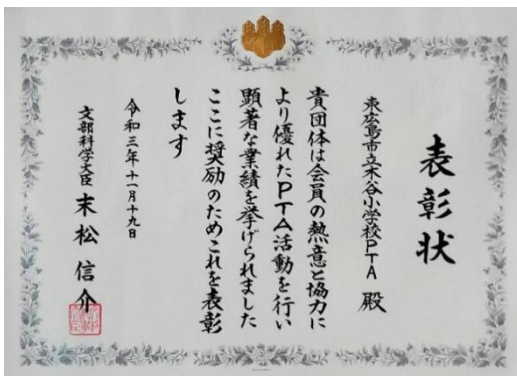
## 木谷竹細工同好会が留学生と交流



12/4 留学生に日本文化を紹介するイベントが、(公益財団法人)ひろしま国際センター主催により、ひろしま国際プラザ(西条町)で開催されました。今回は“門松づくり”で、木谷竹細工同好会(代表:水野哲朗さん)が協力しました。参加者はお手本の門松を参考に、納得の一品を完成させました。18名の参加者の出身内訳は中国9名、インドネシア4名、台湾1名、韓国1名、ベトナム1名、タイ1名、アメリカ1名でした。

身内訳は中国9名、インドネシア4名、台湾1名、韓国1名、ベトナム1名、タイ1名、アメリカ1名でした。

## 木谷小PTAよりお礼 (文部科学大臣表彰)



この度木谷小学校PTAが「優良PTA文部科学大臣表彰」に選ばれました。たくさんのお子どもたちにこの素晴らしい木谷小学校に来てもらいたいという思いから、「特認校制度活性化委員会」を立ち上げ、広報活動を行ってきたことが評価され受賞となりました。このような栄えある賞を頂くことが出来たのも、日頃から地域の皆様が小学校での活動にご協力下さり素晴らしい学習環境を支えて下さっているおかげです。これまでのご尽力に感謝申し上げますと共に、これからもご協力何卒よろしくお願い致します。(木谷小学校PTA)

# 部会活動紹介

## 福祉生活部会



12/8 木谷小の持久走大会を豚汁で応援  
 保育所園児や地域の人たちの声援に励まされ  
 全員が完走。子どもたちが書いたお礼の手紙に  
 は、持久走のあと食べた豚汁の味は格別だった  
 と書かれていました。<木谷地区社協 蛟龍>



12/16 サンタクロースが園児たちにプレゼント  
 木谷保育所の「おたのしみかい」にサンタクロ  
 ースとトナカイがプレゼントを持って訪問。園  
 児と一緒に遊戯をしたり、素朴でかわいい質問  
 に答えたりしました。<木谷地区社協 蛟龍>

## 教育文化部会



12/22 「ほたるの会」が読書活動で表彰される  
 小学校などで読書の楽しさを伝える活動をして  
 いる「読み聞かせグループ・ほたるの会」(代表:  
 吉田直代さん)が広島県読書推進運動協議会か  
 ら表彰されました。発足以来16年にわたる学  
 校教育や地域文化の継承への貢献が評価され  
 たものです。会を支えるメンバーは写真右から  
 8名に中元さんと三好さんを加えた10名です。

## 木谷地域センター主催講座 ②



11/29 健康講座「眠る門には福来る」を受講。睡  
 眠をテーマにした健康講座(講師:広島国際大学・  
 田中秀樹教授)を、お茶の間カフェほぼろ島の参  
 加者が受講しました。NHKで1/19放送の「ガッテ  
 ン!」の「1日4回!体温測定であなたの睡眠力  
 がわかっちゃうSP」でその一端が紹介されまし  
 た。写真は受講後に「ガッテン」の相槌を打つ参  
 加者のみなさん。

木谷の人口(住民基本台帳)	世帯数	人口(男女計)	男	女
令和3年12月末現在	689	1490	730	760
令和2年12月末との比較	-13	-59	-25	-34